

WKC フォーラム 2023

災害・健康危機管理（Health EDRM）2024年研究戦略：
専門分野間の壁をこえた部門横断的アプローチの推進

災害・健康危機管理に関する現在進行中の取り組みや
知見の共有、研究促進を目的に、世界と日本の専門家
との間で、または参加者全員によるディスカッション
が予定されています

2023年11月14日 13:00～17:00

兵庫県立美術館ギャラリー棟1階ミュージアムホール
（神戸市中央区）

参加事前登録要

主催：WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）
協力：WHO神戸センター協力委員会





WKC フォーラム 2023 参加登録

オンラインにて参加登録を受け付けております

登録 HP : <https://dx-mice.jp/EZEntry/WKCForum2023/Entry>

または右下の QR コードからアクセスください

登録締め切り : 2023 年 11 月 7 日 日本時間 23:00

参加費・登録費 : 無料

登録必要事項 : お名前、ご所属等

***名札を作成しますので英語にて入力下さい。**



フォーラム全般に関するお問い合わせ:

WKC フォーラム事務局 (株式会社 ISS 内)

e-mail: wkcforum2023@issjp.com

プログラムに関するお問い合わせ:

WHO 健康開発総合研究センター (WHO 神戸センター)

WHO Health EDRM リサーチネットワーク事務局

e-mail: WKC_WHO_Health_EDRM_RN@who.int





WKC フォーラム 2023 背景と目的

WHO 健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター／WKC）は、阪神淡路大震災からの復興のシンボルとして、1995年にWHO理事会の承認と神戸グループの支援により設立されました。WKCは設立以来、WHO神戸センター研究計画2018-2026にある3つの研究分野の1つである「災害・健康危機管理（Health EDRM）」の科学的エビデンス構築に寄与してきました。

WHO Thematic Platform for Health EDRM Research Network（災害・健康危機管理に関するWHOグローバルリサーチネットワーク：Health EDRM RN）は、地域間および国際的な知識と経験の共有をよりよく連携・促進し、地域や国の政策やプログラムに情報を提供する科学的根拠を効果的に構築するために、2018年に設立されました。Health EDRM RNの事務局として、2019年からWKCはコアグループ会議を開催し、研究ニーズのアップデートや、Health EDRMの研究とエビデンスに関する戦略的アクションについて議論を重ねています。このような戦略策定に加えて、WKCはHealth EDRM RNの参加者や関連する専門家と協力して、グローバルレベルでの活動を推進してきました。Health EDRM RNの主な成果として、『災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス（WHO guidance on research methods for health emergency and disaster risk management）』（2021年発行、2022年改訂）の作成が挙げられます。100人以上の専門家が作成に携わり、日本の専門家も執筆に貢献し、30人以上の日本の専門家の支援により、ガイダンスの日本語への翻訳が進められています。

WKCは、2023年11月13日～14日に神戸で、WHO本部と全地域事務局の専門担当官を招集し、Health EDRM RNの代表者会議を開催します。この機会を逃すことなく、関西及び日本の専門家・ステークホルダーを招き、世界各国および日本や地元関西で現在進行している取り組みを共有し、世界と日本の専門家との間で知見の共有を促進する、災害・健康危機管理に関するテーマに沿ったWKCフォーラムを開催致します。

WKC フォーラム 2023 暫定プログラム (1)

日時：2023年11月14日 13:00～17:00

会場：兵庫県立美術館ギャラリー棟 1階ミュージアムホール（神戸市中央区）

言語：英語

10:00-13:00 参加登録受付、美術館展示の見学（自由参加）

13:00-13:10 開会の辞

13:10-14:20 第一部：WHOのHealth EDMRへの取り組みと研究及び日本の専門家の参画

- DRRとHealth EDMRに関するWHOの取り組み
- Health EDMR研究の進展とHealth EDMR Research Networkの活動
- 各国各地域における研究開発の重要性と人材育成
- 「災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス」の普及と国際共同研究推進の取り組み
- 「災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス」の翻訳と日本における普及プロジェクト
- 日本災害医学会の共同研究推進の取り組み
- 緊急時の保健データ収集とそれに基づく研究とフィールドワークを支える人材育成
- WKC諮問委員会（ACWKC）及びWHO Health EDMRリサーチネットワーク代表者会議からのコメント

（第二部へ）



WKC フォーラム 2023 暫定プログラム (2)

(第一部より)

14:10-15:15

第二部：特別パネルディスカッション：予防可能な災害リスクを最小化するための分野横断アプローチ

- 世界防災研究所連合（GADRI）と京都大学による災害リスク軽減のための学際的研究への取り組み
- 様々な分野をつなぐ統計学と疫学
- 災害後の影響を左右する隠れた要因としての栄養学
- 質的研究と量的研究の調和した連携-災害看護とフィールドワーク
- 全パネリストによるディスカッション
- 総括
- WKC 諮問委員会（ACWKC）及び WHO Health EDPM リサーチネットワーク代表者会議からのコメント

15:15-15:40

休憩、美術館展示の見学（自由参加）

15:40-16:50

第三部：専門家によるディスカッションと戦略的提言

指定発言

- 地域・国における研究ニーズの高まり
- WKC 諮問委員会（ACWKC）からのコメント
- 日本災害医学会からのコメント
- WADEM2025 に向けた連携協力
- 全参加者によるディスカッション
- 総括

16:50-17:00

総括と今後の展望、閉会の辞

(フォーラム終了)



WKC フォーラム 2023

登壇予定者 (1)

(敬称略、アルファベット順)

Jonathan Abrahams

モナシュ大学 Disaster Resilience Initiative, Monash University Accident Research Centre
所長・准教授 (オーストラリア連邦)
災害・健康危機管理に関する WHO グローバル・リサーチ・ネットワーク共同議長

Irene Akua Agyepong

ドドワ医療研究センター；ガーナ医師外科医大学 公衆衛生コンサルタント (ガーナ共和国)
WHO 神戸センター諮問委員

Jehan Al-Badri

WHO 東地中海地域事務局 Country Health Emergency Preparedness & IHR, WHO Health
Emergency Programme 医官 (エジプト・アラブ共和国)

Maged Elsherbiny

ダイレクト・エイド・インターナショナル 高等教育シニアアドバイザー (クウェート国)
WHO 神戸センター諮問委員

サラ・ルーズ・バーバー

WHO 健康開発総合研究センター 所長

Alex Camacho Vasconez

WHO アメリカ地域事務局 Emergency Preparedness and Disaster Reduction, Country Health
Emergency Preparedness and IHR アドバイザー (アメリカ合衆国)

Dick Damas Chamla

WHO アフリカ地域事務局 危機対策・備え マネージャー (コンゴ共和国)

Felipe Cruz Vega

メキシコ社会保険庁 保健分野特別プロジェクト調整部門長 (メキシコ合衆国)
WHO 神戸センター諮問委員

江川新一


東北大学 災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野 教授・所長補佐

原田奈穂子

岡山大学 大学院ヘルスシステム統合科学研究科 看護科学分野 教授
岡山大学 医学部保健学科 看護学専攻基礎看護学領域 兼任担当教授

Kai von Harbou

WHO 本部 Disaster Risk Reduction and Resilience, Health Security Preparedness
医官 (スイス連邦)



WKC フォーラム 2023 登壇予定者 (2)

(敬称略、アルファベット順)

本間正人

日本災害医学会 代表理事
鳥取大学 医学部救急災害医学分野 教授

加藤マクダーモット真喜子

WHO 健康開発総合研究センター 災害・健康危機管理 コンサルタント

茅野龍馬

WHO 健康開発総合研究センター 医官
災害・健康危機管理に関する WHO グローバル・リサーチ・ネットワーク事務局代表

小井土雄一

DMAT 事務局 代表
日本災害医学会 監事

久保達彦

広島大学 大学院医系科学研究科公衆衛生学 教授

倉田真宏

京都大学 防災研究所 耐震機構研究分野・地域医療 BCP 連携分野 准教授

Jan-Erik Larsen

WHO 西太平洋地域事務局 Logistics, Emergency Operations 技官 (フィリピン共和国)

増野園恵

世界災害看護学会理事長、災害健康危機管理 WHO 協力センター センター長
兵庫県立大学 地域ケア開発研究所 所長

Virginia Murray

英国保健安全保障庁 Head of Global Disaster Risk Reduction 教授 (英国)
災害・健康危機管理に関する WHO グローバル・リサーチ・ネットワーク共同議長

野村周平

慶應義塾大学 医学部医療政策・管理学教室 特任准教授

越智小枝

東京慈恵医科大学 臨床検査医学講座 主任教授

大友康裕

日本救急医学会 代表理事
独立行政法人国立病院機構 災害医療センター 院長

WKC フォーラム 2023

登壇予定者 (3)

(敬称略、アルファベット順)

Samuel Reuben

WHO 南東アジア地域事務局 Health EDRM and Operational Readiness 医官 (インド共和国)

坂下玲子

兵庫県立大学 副学長

WHO 神戸センター諮問委員

Tanja Schmidt

WHO ヨーロッパ地域事務局 Health Security, Country Health Emergency Preparedness & IHR
技官 (デンマーク王国)

Viroj Tangcharoensathien

国際保健政策計画財団 シニアアドバイザー (タイ王国)

WHO 神戸センター諮問委員

多々納裕一

世界防災研究所連合 (GADRI) 事務局長

京都大学 防災研究所 社会防災研究部門 防災社会システム研究分野 教授

坪山 (笠岡) 宣代

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 国際栄養情報センター
国際災害栄養研究室 室長

横江亮

WHO 健康開発総合研究センター 地元貢献 コンサルタント

調整中

WHO 神戸センター協力委員会

WKC フォーラム 2023 会場のご案内

兵庫県立美術館ギャラリー棟 1階ミュージアムホール★

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 1-1

兵庫県立美術館は、阪神・淡路大震災からの「文化の復興」のシンボルとして設立され、2002（平成14）年に神戸東部新都心（HAT 神戸）に開館しました。WHO 神戸センターのオフィスがあるビルに隣接しています。

世界的に著名な建築家・安藤忠雄氏によって設計された建物は、延床面積・約 28,000 m²という西日本最大級の規模で、北には六甲山系を、南には瀬戸内海と神戸港の風景を望む美しい環境に位置します。今回は美術館ギャラリー棟 1 階にあるミュージアムホールにて、フォーラムを開催予定です。



JR：神戸線灘駅南口から南へ徒歩約 10 分

阪神電車：岩屋駅から南へ徒歩約 8 分

新幹線：新神戸駅からタクシーで約 15 分

詳細は[こちら](#)をご覧ください。

注意事項：

フォーラム会場となるミュージアムホール内に限り、構造上及び主催者決定により、電話回線とインターネット利用が出来ませんこと何卒ご了承ください。

また、レストラン・カフェ以外での飲食は禁じられております。特に美術品の汚損防止のため糖分を含む飲料の持ち込みは禁じられておりますのでご注意ください。

